2025 年度 横浜fカレッジ 自己評価報告（ダイジェスト）

1. 実施方法

自己評価については、2013 年 3 月に文部科学省により出された「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り実施。　※別紙：2025 年度 横浜fカレッジ 自己評価表

以下、項目ごとの課題事項、年度トピックについて概要をまとめた。

2. 評価項目の達成及び取り組み状況

2-1.教育理念・目標

(1)教育理念・目標

本校は、学校法人岩崎学園の理念である「人材育成を通した地域社会への貢献」のもと、 ①感性の向上　②高度な技術力の習得　③豊かな人間性の涵養　④プレゼンテーション能力の育成の 4 つを教育目標に掲げ、ファッション、美容、ブライダル分野の人材育成に取り組んでいる。

(2)将来構想へ向けた体制

岩崎学園 100 周年を見据えて策定された中期事業計画に基づき、教育現場と組織運営の双方における DX を推進。また、教育の化学科による人材育成を目指し、再現性のある成長環境の構築に取り組んでいる。

2-2.学校運営

(1)運営方針

理事会での学校運営に関する根幹の決定に基づき、3つの重点実施項目を策定し教育活動を行った。リーダーを軸に、効率的な学科運営を行う目的で設置した学科別の業務グループについては、学校目標からブレイクダウンされたグループ目標が明確化され、 組織的に業務遂行が行える体制となっている。また、事業計画は、個人の業務計画・目標に落とし込みを行い、期首・中間・期末での振り返りを実施。成果の見える化を基準にグループリーダーと面談を実施し、教職員の育成にも傾注した。一方で、後継者となる管理職の育成が課題。組織的な取り組みが急務。

(2)IT ツール活用による教育の DX 化と業務の効率化

昨年度全学科で導入した Swipe Video（自由視点映像ソリューション）については、学科による活用状況を鑑み、今年度は美容師科、ヘアメイク・アイデザイン科でのみ採用。美容師国家試験実技試験課題のコンテンツを作成し、授業内および予習復習に活用した。

また、美容師国家試験筆記試験対策として、AI による問題分析、いつでもモバイル端末から過去問題や苦手分野の学習ができる環境整備を試行。次年度の合格率向上に向け、引き続きコンテンツ制作に注力する。

(3)働き方、健康管理

募集活動等に係る休日出勤については、振替休暇の取得が比較的しやすいよう、引き続き半日勤務を推奨。学内に衛生委員を置き、学園本部と連携しながら教職員の健康管理、校内環境、教室環境の改善に努めている。AI 活用を推進し、授業教材作成等の効率化を図ると共に、空いた時間を有効に使用し、教職員の心身の健康を保つ取り組みを始めた。

2-3.教育活動

（1）教育課程の編成・実施方針

①教育理念・目標を具現化するためアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーをベースに、「学科グランドデザイン」「カリキュラムグランドデザイン」「シラバス」を作成。学科にかかわる常勤・非常勤を含めた教員で共有し、教育内容の明確化と科目横断的な教育効果の向上を図っている。

②年2回の本校教育分野関連の業界団体・企業等の有識者による「教育課程編成委員会」や、産学連携の取り組みを通して、グランドデザイン、シラバスの見直しを行い、産業動向や企業ニーズに合わせた教育を推進している。

(2)魅力的なカリキュラムの構築

産学連携やインターンシップなど、学外との連携で実践的な学びを体感できる場を提供。新規連携先の開拓も積極的に取り組み、全ての学科で新規連携を実施した。

業界トレンドの理解促進を目的とした授業連携プログラムを実施。美容系学科においては、国内に加え海外からアーティストを招聘し、世界水準の技術および最新トレンドに触れる機会を創出した。プログラムでは、海外アーティストによる実演を通じて高度な技術を体感するとともに、仕事内容や国際的な業界動向に関する理解を深める機会とした。

(3)2026 年度に向けた、学科カリキュラムのブラッシュアップ

2026 年度の展開に向け、①学生に分かりやすく、②時代の変化の中でも通用する、③学生と教務双方にとって効率的で運用しやすい等を目的にカリキュラムのブラッシュアップに着手。また、最新の技術やトレンドを存分に盛り込み実践的な授業が展開できるよう、教職員の外部研修も奨励している。

（4）産学連携・インターンシップの体系化

産学連携やインターンシップへの参加も多数あり、学生には実践的な学びの場となった。

①企業提示の課題による産学連携

・公益社団法人 2027 国際園芸博覧会協会と連携し、『GREEN×EXPO 2027』の VIP アテンダントスタッフユニフォームのデザインコンペを実施。ファッションライフデザイン学科1年生の作品が採用され、現在は東レ㈱・ダイイチ㈱と連携し製品化が完了している。本取組は、学生作品の国際イベント採用という具体的成果ならびに実践的なデザイン教育の機会創出となり、企業との協働による実践的なものづくりのプロセスを経験することで、職業観情勢の場となった。

・丸紅㈱との連携で、同社が運営するメタバース空間（WEAR GO LAND）にて3D モデリングを活用したデータ展示、アバター製作を実施。最先端のデジタル表現やファッションビジネスの可能性について、実践的に学ぶ機会となった。

・完成年度を迎えたヘアメイク・アイデザイン科において、松竹株式会社と連携し、映画出演者のヘアメイクインターンシップを実施。本取り組みにより、実際の制作現場における実務経験の機会を創出し、学生の実務への理解を深めるとともに教育成果の可視化に繋げた。

②現代の抱える課題や社会貢献につながる取り組み

・ファッションビジネス科では、昨年度に引き続きサステナブルとサーキュラーエコノミーを表現する場として、学生によるリメイク・アップサイクル商品の展示販売をラフォーレ原宿にて実施。本年度は企画段階よりデザイナーの関根氏が参画し、商品価値の向上に取り組むとともに、生産コストを意識した商品づくりを通じて、流通に関する理解の深化を図った。

③企業によるイベント協力等での地域振興への協力

・地元スポーツチームの試合時の応援イベント支援（フェイスペイント等）

・横浜ビブレ ハロウィンイベントにおけるフェイスペイント

(5)教員研修

教職員には、専門性を高めるための研修と、教授法や学生指導に関する研修を実施し、研鑽を積んだ。また、2022 年度より、学園の制度として、教職員の自主的なキャリアアップを支援することを目的としたキャリアアップ支援制度が設置され、6 名が新しい資格にチャレンジし取得した。

2-4.教育環境

(1)施設・設備

前年度に引き続き、すべての学科で学生にノート PC を貸与。自宅でオンライン授業が受講できる体制を整えている。また、学内に個室型ワークブースを 3 台設置し、就職活動におけるオンライン面接等に活用した。

2-5.学習成果

(1)内部特待生制度

本学園のすべての専門学校に在籍する進級学生を対象に「内部特待生制度」が導入されており、令2025 年度は 14 名の内部特待生を選出した。

内部特待生は、学校情報の発信への寄与に加え、校内で行われた学校行事にも率先して参加し、他の学生の模範となっている。

(2)就職実績

進路・就職に対する支援は、企業との窓口や学生への就職指導を担当する職員と教員が連携し、学生の活動をサポートしている。2025 年度は、前年と同水準の結果となったが、中でも完成年度を迎えたヘアメイク・アイデザイン科やブライダル科の就職率 100%を達成するなど、高い成果をあげた。

【2025 年度就職実績】

・就職率：97.3%

(3)時代のニーズに対応した学習の導入

・美容の多様化に対応し、施術者向けに創設したメンズヘアメイク検定も4年目を迎え、受験対象者を他学科に拡充。姉妹校との連携により、男性モデルによる実践的な実習が実現でき、合格率向上に繋がった。次年度も協力を仰ぎ、技術力の向上を目指す。

・美容師国家試験筆記試験対策において、一部科目で AI 活用を試行。過去問題の分析を基に、苦手分野の抽出を行い、効率的な問題作成およびモバイル端末での自己学習環境の構築まで展開した。

効率的な学習環境の提供につながるとともに、教材作成業務の効率化および教員の業務負担軽減に寄与することが確認されたため、次年度以降は対象科目数を拡大し、合格率のさらなる向上を目指す。

(4)資格取得・コンテスト

【資格】

学習の目標としてカリキュラムの中に計画的に資格取得を配置し、専門知識、技術の確実な習得をめざすとともに、合格により達成感を体感し、次のステップへの意欲醸成につなげている。

①美容師国家試験合格率 87.6%(実技合格率 97.8%、筆記合格率 88.5%)※MD 科は実技合格率 100%
②美容師科で 2020 年度から導入した「ヘアケアマイスタープライマリーコース」の合格率は 79%で、昨年比＋5%という結果を出すことができた。
③ヘアメイク・アイデザイン科では、シュウウエムラ メイクアップ技術検定試験、まつ毛ｴｸｽﾃﾝｼｮﾝ技術者認定試験ともに合格率 100%。
④ビューティーコーディネート科では、コースごとの目標資格を明確に定め以下の成果を得た。
日本メイクアップ技術検定 1 級合格率 100%
ネイリスト技能検定 2 級合格率 100%
JNA ジェルネイル技能検定上級合格率 78,1%
JEEC エステティシャンセンター試験合格率 100%
AEA 上級認定エステティシャン合格率 80.0%
⑤ブライダル科では以下の成果を得た。
サービス接遇検定準1級 合格率 98.0%
ブライダルコーディネート技能検定 3 級 97.0%
⑥ファッションライフデザイン学科では、以下の成果を得た。
洋裁技術検定中級合格率 100%
色彩技能パーソナルカラー検定モジュール 1 合格率 86.2%
ファッション3D モデリスト検定 3 級 合格率 100%
⑦ファッションビジネス科では以下の成果を得た。
ファッションビジネス能力検定 3 級 71.4%
ネットショップ実務士補 95.5%

【コンテスト】

学生の社会的な評価を得る機会として、外部コンテストへの参加を促進。

①ファッション系
・株式会社パル主催「PAL Foundation Cup」に出場
②美容系
・(株)ラグゼビューティー主催「ヘア＆メイクアップフォトコンテスト 2025」2作品入選
・神奈川県美容技術選手権大会 学生大会の部 オールウェーブセッティング 入賞
・全国美容学生ヘアメイク総選挙 入賞

(6)退学者

退学率 8.3%(前年比－3.2%)

退学者防止対策として、年度初めから Slack のリアクションボタンを活用し、全学年で学生状況を把握した。加えて、早期面談やこまめな声がけに取り組み、退学者が多い 4～6 月にはスポーツ大会や先輩とのランチ会を実施し居場所づくりを行った。さらに、学生対応に関する教員研修も実施した結果、退学者は昨年比-3.2%となった。一方で、精神疾患等の持病や友人関係の悪化による退学の抑制には至らず、引き続き課題である。

2-6. 学生支援

(1)学生相談

状況ごとにクラス担任、学科リーダー、専門のカウンセラーと複数人で対応をしている。

(2)経済的な支援

・2020 年度より始まった「高等教育就学支援新制度」の対象機関として認定を受け、学費支援策の枠を広げた。

・給付型、貸与型と様々な支援策があり(下記参照)、また、利用者も年々増加傾向であるが、それでも経済的な苦労を抱える学生は少なくない。

【学費支援策利用状況　人数は延数】

	令和7年度	令和 6 年度	令和 5 年度
岩崎学園奨学生制度(貸与型)	9 名	8 名	9 名
日本学生支援機構奨学生(貸与型)	425 名	335 名	348 名
日本学生支援機構奨学生の内、学費分割納入者	195 名	196 名	198 名
日本学生支援機構(給付型)	220 名	127 名	122 名
高等教育の修学支援新制度(授業料等減免)*2020 年度より	220 名	127 名	122 名
岩崎ともみ奨学財団奨学金(給付型)	6 名	5 名	9 名
美容系求人企業奨学金(給付型)	1 名	1 名	1 名

(3)保護者との連携

前期、後期の成績については、学校生活や就職活動についての「保護者へのお便り」とともに Web システムを使用して通知している。また、入学ガイダンスや美容師科・ビューティーコーディネート科の保護者会、学校行事の様子などをオンライン配信した。

(4)防災体制

激甚災害行動マニュアルを策定し運用。

Slack を活用し、台風・降雪等の荒天時の教務部判断を設けて対応。

2-7.学生の受け入れ募集

前年度に引き続き、対面とオンラインのオープンキャンパスを併用しながら学生募集活動を展開。

2026 年度の入学生は 436 名(前年:453 名)。

2-8.財務

財務基盤は安定しており、継続的な学校運営に問題ない状況である。

2-9.法令順守

学校の設置や運営に関する法令は遵守しており、神奈川県の認可を受けている。毎年、学則、カリキュラムの届出と学生数、教職員状況、卒業生状況等の報告を行っている。

個人情報保護については、本学園ホームページで公開している個人情報保護方針に則り行っている。

2013 年 3 月に文部科学省により出された「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、自己評価を実施。ホームページ上で公開するとともに、学校関係者評価委員会を開催し、専門的かつ客観的な意見を聴収した。また、議事録をホームページ上で公開した。

2-10.社会貢献・地域貢献

(1)学校の教育資源や施設を活用した社会・地域貢献

本学園の姉妹校とも連携しながら、地元プロスポーツチームや地域イベントの活動に参加し、日ごろの学習成果を披露しながら地域社会に貢献。学生主体で立ち上げたサークル活動などを通じて、社会貢献や地域貢献の活動の企画から実行までを継続的に行うことが課題。

(2)地域に対する公開講座・教育訓練の実施

高校生向けキャリア講座(仕事の学び場(5 講座 85 名)、総専協夏期講座(2 講座 123 名))の受け入れを行った。

以上